

## B. 技術優位性のPRを可能に

- 株式会社 田中電気研究所は、火力発電所や清掃工場から排出される低濃度ダスト濃度を自動測定する機器を開発。
- 本製品の品質を証明する基準はないため、客観的な評価を得るために、自動測定器の性能評価方法を標準化。
- 規格を用いた説明により、取引先への説得力が増し、売り上げが2倍に増加。

### 規格作成にあたっての期待・動機

従来、ダスト濃度分析のために、法令により定期的に煙突等の高所に登る必要があったが、より安全でかつ簡易である自動測定器の市場展開を進めるために、製品の性能を客観的に評価する環境を整えたい。

### 規格の概要(機能を評価するための試験方法)

排ガス中のダスト濃度を、長期間にわたり連続・安定的に測定する自動測定器の性能評価方法を定める。

※精度の高い測定が出来る濃度計内のダストの処理技術の特許化

### 効果

「製品の信頼性を示してほしい」という要望にスムーズに答えられるようになり、取引が拡大。東南アジアを中心に海外の導入事例も増加している。

売上推移：2017年(JIS作成前)から2019年(JIS化後)で2倍に増加。2020年はコロナの影響を受けているが、大手電力会社や製鉄所などに納入先が拡大している。

### 今後の展開

更なる市場拡大に向けて、将来国際標準化も検討予定。

また、国内法令における採用も働きかける。

